

~SUMMER~

えふあい通信

1

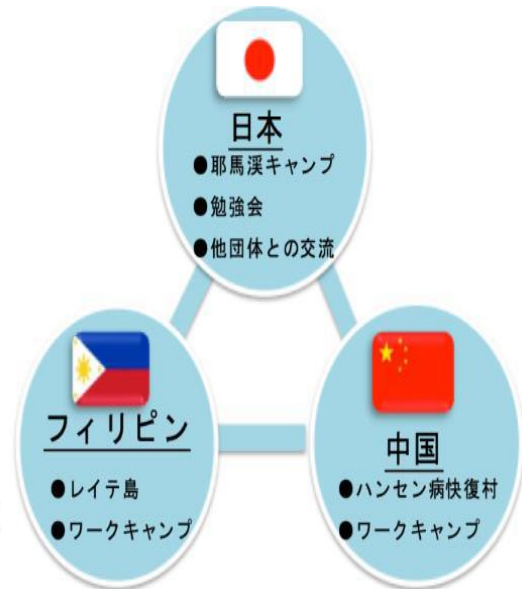
2016 ver.



FIWC九州 広報誌 夏

1. FIWC 九州紹介

FIWC 九州とは???



FIWC 九州（フレンズインターナショナルワークキャンプ）は九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしている国際協力学生団体です！「フィリピン」「中国」でのワークキャンプ、「日本」での国内活動の三本柱を中心に活動しています。自由な発想で、自由な活動を行うのが FIWC 九州の特徴です(´-`)(。_。)

2. 新代表あいさつ

2016 年度 FIWC 九州委員長をさせていただいています、西南学院大学 3 年平野佳奈です。4 月から役員と活動を始め、半年が経ちました。昨年度は広報として団体に関わってきましたが、委員長になって改めて、支えてくれる方々の大きさを感じています。また、私たちは本当に多くの機会に恵まれていると思います。先輩達が築いてきたたくさんの繋がりをより深く、さらに広く繋げられるように、そしてえふあいに関わってくれたみんなが存分にこの機会を利用し、それぞれのきっかけとなる何かを得られる、そんな場を作っていきたいです。

最近九州の中で希薄になっていた中国キャンプですが、恵風園や敬愛園を訪ねるメンバーもあり、とても賑やかになってきています。加えて今年度は FIWC 関東との繋がりで、ネパールでの震災復興支援キャンプも行う予定です。支えてくださる皆様に感謝を忘れず、進化し続けられる団体でいられるよう頑張っていきたいと思いますのでこれからもよろしくお願いします！

文責：FIWC 九州委員長 平野佳奈

3. 特集 ネパールキャンプ

こんにちは2016年ネパールキャンプリーダー野中くるみです。FIWC九州にネパールキャンプとかあったっけ？そう思った方も多いのではないかと思います。それもそのはず、FIWC九州は今までフィリピンキャンプ・チャイナキャンプ・国内活動の3つを拠点に活動してきました。しかし今年「ネパールキャンプ」も行われているんです！



3

◎そもそもネパールキャンプとは…？

今回のキャンプはネパールのメールダラという村での震災復興支援です。緊急性を要するニーズとして今年からFIWC九州では発足しました。2015年のネパール地震もみなさんの記憶に新しいと思います。その地震の影響によりこの村では100年以上も使われていた井戸から水がでなくなるという被害がでました。水資源の確保をするためこの村のwater systemの改善をFIWCで受け持つことにして現在ミーティングを重ねています。

◎なぜこの村に決まったのか…？

震災復興をするためにこの村に決めたのではなくこの村を支援するために始まったネパールキャンプであるということがいえます。FIWC九州はネパールにツテがあるわけではありませんが、この村では教育支援を目的とする外の学生ボランティア団体のTAPが活動していました。そしてその団体がこの問題を解決したいが、インフラ整備を目的として団体ではないため難しい、そこでネパールにおいてワークキャンプ形式でインフラ整備を行っているFIWC関東の存在を知り、共同で行うことに。

◎FIWC関東が主催なの…？

2016年春にFIWC九州からのメンバー一人を含む関東メンバーによるキャンプを行ったが、エンジニアさんとの都合の兼ね合いであったりと諸事情によりワークはできなかつたのです。そこでワークは次年度に持ち越しとなったのですが、FIWC関東



のキャンプ参加者がほぼ社会人であったためキャンプの続行が不可能！！なので九州が引き継いだ！！という形なのです。(^^♪

◎キャンプの詳細は…？

ネパールメールダラ村において water system の改善というワークは決まっていますが、その他の詳細についてはこの夏に行う下見キャンプにおいて決定します(^◇^) どうぞ楽しみに！！！！！！(^^)



文責：2016年度ネパールキャンプリーダー 野中くるみ

4. 特集 熊本恵楓園

こんにちは。今回の特集ページでは、『生きる』ということに関して、今までとは少し違った視点から見ていきたいと思います。

皆さんは、熊本にある「菊池恵楓園」という施設をご存知でしょうか。これは、日本最大級のハンセン病快復者の療養施設であり、現在も約 270 名の方が入所されています。この恵楓園で、平成 28 年 4 月より新たな活動が行われています。

◎ハンセン病と差別

ハンセン病は、らい病とも呼ばれ、かつて世界的に流行した病気です。病状としては、神経がマヒして痛みを感じなくなったり、指が曲がったまま動かなくなったり、失明したり、など主に外見に病状が表れてしまう病気です。それにより、特効薬が無い時代は、患者を山奥に隔離

するなどして感染を防ごうとしていました。これが、ハンセン病患者の差別・迫害の始まりでした。その後に薬が開発され、もともと弱い菌であるため薬によってすぐに治る病気となりました。また、ハンセン病は空気感染もしないということが明らかになりました。しかしながら、ハンセン病の後遺症を持った人々は、差別され続け、社会から隔絶され、療養所での生活を余儀なくされました。名前も変えさせられ、家族や友人にも会えず、生涯を療養所という閉ざされた場所で過ごしました。遺骨や遺品もすべて療養所内の焼却炉にて燃やされ、親族の元へ帰ることはありませんでした。このような差別を受けてなお果たしてこれは、『生きていける』と言えるのでしょうか。

◎恵楓園での活動

菊池恵楓園でもこのような差別が行われていました。では、そのような歴史を持つハンセン病療養所「菊池恵楓園」で今、いったいどのような活動が行われているのでしょうか。それは、『菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」作品調査』です。これだけではいったい何のことかさっぱりですよ。実は、恵楓園には「金陽会」と呼ばれる、複数の入所者によって作られた絵画クラブがあるのです。現在の会員数は1名だけになってしまいましたが、発足当時は10数名のメンバーで活動していました。そ

して、その金陽会のメンバーの方々が残した作品が、今もなお恵楓園に残っていたのです。その数なんと、750点以上。これがどれほどすごいことなのか、お分かりいただけるでしょうか。残っている750点の内、数百点は、亡くなった金陽会のメンバーの方が残した作品、いわば「遺品」であるのです。先ほど述べたように、遺



品はすべて、焼却炉で燃やされてしまいます。それが燃やされずに残っているのは、現役で活動している金陽会のメンバー、吉山さんのおかげに他なりません。そのような事実を知り、この残された作品たちを後世に残すために、今現在、作品調査ということで、膨大な数の作品の補修・整理、写真撮影によるデータ化を行っているのです。

◎インタビュー

この作品調査を主導してくださっている、蔵座江美さん、コーダ・ヨーコさん、坂本和代さんにコメントをいただきました。熱い思いを感じてほしいため、原文そのままを掲載したいと思います。

☆坂本和代さん

私は熊本で商業カメラマンをやっています。絵が下手なので写真の道を選んだところもあり、今回の恵風園での作品調査に参加させていただくのは、絵心のなんたるかを知るよい機会だと思いました。沢山の作品はひとつひとつ丁寧に汚れを落としたり、ナンバリングしたりしてその後私が撮影をします。もくもくと撮影をしながらふと裏側を見ると、描いた年代や、ちょっとしたメモが走り書きしてあったり、なんかゆがんでるなあと思ったら手作りの額だったり、、、絵に見入ることもしばしば。限られた環境のなかで長年描かれてきた作品には、まるで宗教画のような沈黙の叫びを感じることがあり、その作品を記録することはその叫びを後年に残すことになります。教科書やニュースの中での出来事が、生身の人間に降りかかった現実の事なのだと思うようになりました。ふりかかった試練を乗り越える、戦う、受け入れる、静かに見守る、、、絵から生き方のそれぞれを学べるように思います。

☆絵描き・イラストレーター コーダ・ヨーコさん

無知や偏見から生まれる差別。差別する側の人間の醜さと差別を受ける側の深い傷。一度生まれた差別はなかなか解決できず、とてもやっかいなんですね。何ごとも「知る」ということからしか始まりませんが、今回作品調査に関わることで「知る」という入口に立つことができました。現在も続くハンセン病という歴史には、私たちがこれから生きてい

く上で学ぶことが沢山あるように思います。作品調査では莫大な作品の数にも圧倒されますが、恵風園で生涯を生き抜いてこられたという証が眩しくも感じられます。何故ならイキイキとした力強い作品ばかりだから。作品につい見とれて、手が止まってばかりです。

◎私たちは、無知や偏見から知らず知らずに誰かを傷つけていないだろうか。

◎私たちは、差別のない社会をこれから作っていけるだろうか。

◎私たちは、今、力強く生きているだろうか。

作品調査をきっかけに、今、強く感じていることです。

☆一般社団法人ヒューマンライツふくおかさん

蔵座江美昭和 28 年に園内に発足した絵画クラブ「金陽会」の再調査を始めて 5 ヶ月。残されている作品数は 750 点を超える。国立療養所内にこれだけの作品群が残されているのは奇跡的なことだ。在園年数がほぼ半世紀にわたるメンバーが残した絵画には、入所以来帰ることの叶わなかった故郷を思って描いた作品、メンバーと共にスケッチに行って描いた作品など、それぞれの絵に物語がある。これらの絵を後世に残し、同じような人権侵害を二度と起こさないようにすることが、この絵に出会った人間としての責任だと思っている。この作品調査にはたくさんの方にご協力いただいている（FIWC 九州のメンバーにも！）。作品調査以前からご支援くださっている、熊本在住のイラストレーター、コーダさん、コマーシャルカメラマンの坂本さんから感想をいただいた。あなたもきっとこの作品群に会いたくなるに違いない。



◎最後に

このお三方のみならず、非常に多くの方がこの活動に関わってくださっています。FIWC 九州からも、何人もこの作品調査に参加させていただき、その目で作品と向き合い、言葉では伝えきれなかったものを感じ、そして、ハンセン病について考える機会を与えて頂いています。皆さんもこの活動を通して、ハンセン病についてのみならず、『生きる』とは、いったいどういうことなのか、考えてみてはどうでしょうか。



文責：2016 年度チャイナキャンプリダー 櫻井啓介

5. フィリピンキャンプ

☆概要

- ・期間：2016年2月18日～3月18日
- ・場所：フィリピン共和国レイテ州
タバンゴ市ブタソン村
- ・ワーク内容：水道システムの改善（計6つ）
- ・費用：125,888P（約31万円）



※タバンゴ市での初めての事業ということを考慮した結果、村が元々事業をする予定で用意していた資材以外の必要なものの費用は全額 FIWC 九州が負担した。また費用には2団体から頂いた助成金を使用した。

☆初のタバンゴ市でのキャンプ

これまで FIWC 九州は 2007 年～2015 年にわたってレイテ州マタグオブ市でインフラ整備事業を行ってきた。他団体の援助が増えていることもあり、少しずつではあるが私たちにできることが減ってきているのではないかと近年感じていた。そして今回私たちはこれからのキャンプのことも考えてワーク地の拠点を多くのニーズが見込めるタバンゴ市に移すことに決めた。

☆キャンプ地について

今回のキャンプ地であるブタソン I 村は山村であり、トイレのない集落や電気の通ってない集落も多くあった。学校から家が遠いために通学が困難だという子供もいたほど、集落が散在していた。村人はお祭りが大好きで、みな親切に日本人に接してくれた。

☆ワークについて

ブタソン I 村は山奥の村であるため水源は豊富だが、水道設備が各家に整っているのは 13 の集落のうちわずか 1 つであった。その他の集落の人々は近くの井戸に毎日水を汲みに行っているが、その井戸はふたの無いものが多く、雨水や生活用水が混入してしまい水が汚い。また井戸



が集落から離れていることも少なくない。今回の事業では、井戸のふたを作り、集落の近くにタンクやポンプなどの公共水道施設を作った。これにより、水質の向上、そして水汲みによる時間的・肉体的負担を軽減することを目的とし、4つの集落で6つの水道システムの改善を行った。

☆総括

今回、FIWC九州として初めてレイテ島タバゴ市で事業を行ったが、村人が日本人のことを認知してくれているマダグオブ市とは異なることも多く戸惑うこともあった。それでも村人は日本人のことを理解しようとしてくれ、私たちの事業や生活を手助けしてくれた。また、1つの村で6つの水道設備を改善することで多くの人々に利益を与えられたというのは初めての事業として大きな成果である。次回の事業につながるプロジェクトを成功させることができたと感じる。一年間たくさんの人達にお世話になりました！ありがとうございました！

文責：2015年度 フィリピンキャンプリーダー 林田梨里子

☆新キャンパー挨拶

2016年度フィリピンキャンプリーダーを務めさせていただきます渡邊諒です。今年度はタバゴ市へキャンプ地を移動して2回目のキャンプとなります。今まで10年間の先輩方の積み重ねを大切にしながら、今年度ならではの新たな試みも取り入れていき、キャンプを盛り上げていきたいと思っております。応援宜しくお願い致します。



文責：2016年度 フィリピンキャンプリーダー 渡邊 諒

6. チャイナキャンプ

☆概要

期間 2016年2月17日～2月25日

場所 中華人民共和国 広西省チワン族

自治区桂林市 坪山ハンセン病快復村

参加人数 6名 (家-JIA-の学生20名とともに)



2013年以前チャイナキャンプでともに活動していた家JIAの桂林地区とともに行いました。

☆キャンプテーマ

～ONENESS@ANOTHER SKY～

今回のキャンプは桂林地区と久々にともに行うキャンプであり、中国人キャンパーとも熱く語り合いたいという思いや、日本人キャンパー同士もお互いの思いをぶつけ合っこのキャンプを盛り上げていきたいという思いとともに、何よりも村人と共に過ごす中で彼らと心から通じ合いたいという思いがありました。全部誰かがいてこそ、関わってこそ達成される思いです。関わる全ての人々と

「ONENESS」になり、新しい視点や感情を持てればいいな、そう考えてこのテーマにしました。

☆キャンプ内容

ワーク ・村の中にある屋外キッチンの整理

- ・ゴミ拾い
- ・まきに使う木々の伐採

ハウスワーク ・小さいまきをまとめる

- ・村人の部屋の掃除のお手伝い

イベント ・灯ろうを作ってプレゼント

- ・フェアウェルパーティー



☆総括

今回のキャンプはこれまでの FIWC 九州が行ってきたキャンプに近い形で行うことができました。村人がいて、中国人キャンパーがいて、本当に多くの出会いがありました。今回私たちは大規模なワークは実施しておらず、チームを分けてワークを行っていました。その分、村人のそばにいる時間も多かったです。だからこそ、たわいもない話やハンセン病についての話、時には言葉は通じないけれど寄り添って笑顔でジェスチャーして思いを伝えようとしてみたり…のんびりとしながらも温かい日々を過ごせました。

村人と過ごす中で、かつての彼らのつらい経験に思いを寄せながらも、しかし、彼らに何かしてあげなければという感覚ではなく、人と人との関わりの中で生まれる笑顔や安心感というものを互いに感じるためにここにきているのかな、と感じました。ワークをするためにキャンプに行くのではなく、ワークをすることで、関わる相手に対して、自分自身に対して、社会に対してどう響くのか考えることはとても大切だと思います。

チャイナキャンプは大きなワークをしないからワークキャンプといえるのかと考えたりもしていましたが、そこに人がいて、お互いに同じところで生活して、笑いあって、大なり小なりワークを行って、キャンプ全体を通して少しでも明るい形で未来が見えるならば、素敵な活動なのだと改めてメンバーで確認できました。



文責：2015年度 チャイナキャンプリーダー 金納梨恵

☆新キャンパー挨拶

2016年夏季チャイナキャンプリーダーの櫻井啓介です。今回のキャンプは、今後のチャイナキャンプ継続に向けて大事なキャンプになると思っています。ですが、メンバー全員の意見を尊重して、現地の村人や中国人キャンパーも含め全員が「楽しかった！！」と思えるようなキャンプにしようと思っています。チャイナキャンプの今後の活躍にご期待ください！

文責：2016年度 チャイナキャンプリーダー 櫻井啓介

7. 耶馬溪キャンプ

苗植えや田植え,そして収穫に合わせて、5,6,10月に行われます。FIWCのメンバーだけでなく、農作業のお手伝いを通して地域の人々との交流も楽しめるのは大きな魅力です!今年度もたくさんの人々に参加していただき、地域の人々と笑いあったりどろんこになったり肝試しで叫んだりと...とっても楽しく活動することが



ことができました!また、6月の耶馬溪では耕作放棄地について学び、鈴木さんと意見を交換し合うことによって、これからの農業について考える有意義な学びの場を設けることもできました。今年度の耶馬溪も残すところあと10月!みなさんに楽しんでもらえるよう頑張っていますので、よろしくお祈りします!

文責：2016年度耶馬溪係 真壁良充

8. 国内イベント

☆新歓

今年もFIの活動を広めるために西陣のしょうきで新入生歓迎会を行いました。多くの新入生が今年も参加してくれました。九大、西南、福大、新たに中村の学生が来てくれました。最初は少し緊張気味の新入生でしたがドリンクが進むにつれ、慣れて、楽しんでいました。FIの活動を新しい世代にうけついで多くの人にFIのよさ、ワークキャンプのよさを知ってほしいです。



文責：2016年度国内係 岩永悟



☆まんば BBQ

7月10日にまんば（monthly party）としてびおとーぷに所属する団体間で筑前深江の浜辺でBBQを通して交流会を行いました。同じ学生団体としてAPiQ!!さんと普段の活動について意見交換を行ったり、合同でイベントを開催する予定を立てたり、相互に刺激を受けるイベント

となりました。また、早くも海を満喫し、親睦を深めることができました。

文責：2016年度国内係 渡邊諒

☆FP ソルト・パヤタス

FIWC九州の定期イベントであるFPを7月16日に行いました。FPとは、FIWC partyの略で、メンバーが集まって語り合いながら勉強をしていく場のことです。そして今回のFPはFI九州と同じくフィリピンで活動をされている団体ソルト・パヤタスの井上さんに来ていただき、講話をしていただきました。ソルト・パヤタスさんは子供



と女性を中心に教育を収入の向上の支援を行っている団体で、同じフィリピンですがFI九州とは別の地域で活動を行っています。自分たちの活動からではなかなか見ることのできないフィリピンの教育の現状や、またそれをどのようにして改善をしていくかなど様々な話を聞くことができとても勉強になりました。

また、お話を聞くだけでなくフィリピン料理を作って、食べたりしながら、みんなで意見交換をすることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

文責：2016年度国内係 久保海晴

9. 会計報告

2016年度収支報告書(2～8月)			
日付	内訳	収入	支出
2月12日	F P	7,000	6,600
2月29日	印刷代		14,753
3月23日	会費		20,000
4月4日	印刷用紙代		369
4月6日	印刷用紙代		198
4月16日	新歓	3,000	
4月23日	キャンプ報告会	29,500	26,777
4月28日	九大合同新歓 (Boooooom!)		1,000
5月14日	F P (能古島)	10,000	8,280
5月17日	ニュースレター郵送代		2,215
5月18日	印刷代 (チャイナ報告書)		4,352
5月22日	まんぱ!	8,500	6,678
6月8日	スタディーツアー合同説明会		1,500
7月7日	交通費		2,000
7月15日	九国大		4,440
	地球市民どんたく (材料費)		10,000
8月6日	キャンプ参加費 (フィリピン)	6,000	
	キャンプ参加費 (チャイナ)	11,000	
	国内合宿	24,500	27,221
		残金	¥180,801

文責：2016年度会計 中村天音

10. イベント告知

- 10月22日(土) 夏のキャンプ報告会
 - 10月30日(日) 地球市民どんたく
 - 11月5日(土) FP 山登り
 - 11月19. 20日(土)(日) 九大学祭
- みなさんぜひぜひ起こしてください!!



11. 役員紹介

To **かな** From さとる

委員長

われらが委員長平野様。圧倒的身長から振り下ろされる恐ろしいツッコミで役員みんなびくびくしています。といういじりはさておき。しっかり役員をまとめてくれている彼女に感謝なりません。個性の強い役員をまとめてくれています。相変わらずのツッコミの鋭さ、キレ、安定感ほくらを安心させてくれますね。最近ではボケたい素振りをよく見せてくれます。後半も支えていきたいです。



15

To **ゆう** From かな

副委員長



the マイペース！様々な奇跡(?)を呼び起こしてくれる、そんなゆうとやっていけるのかと私自身不安ばかりのスタートでした！しかし半年間何度助けられたか分かりません！FUNNでインターンを経験し、フィリピン・中国・ネパー

ルと、全てのキャンプに存在する彼女は2年生ながら抜群の安定感を発揮してくれています！好奇心いっぱいの、大きくてまっすぐな心の持ち主！常に役員に風を吹かしてくれる素敵な副委員長です(^o^)

To りょう From あいな

国内係、フィリピンキャンプリーダー

九州大学法学部2年であり、2016年度フィリピンキャンプリーダーも務める渡辺諒！最近常ににやにやしているりょうくんですが、仕事はまじめにこなします。そしてその見た目からクマや牛に見間違われることもあるという非常に面白い青年です。ごつくてでかくて近寄りにくいような風貌ですが、実は非常に優しい心の持ち主なので、ぜひ気軽に話しかけてみてください！



16



To かいせい From かずま

国内係

FIの愛されキャラといえばこの人！！

犬が大好きアイドルオタク疑惑の海晴くんです！！普段はイジられたりしている彼ですが、話し合いになると自分の考えを真っ直ぐ伝えるというクールな面も！今後の彼に期待です！！！！

To さとる From ホコタテ

国内係

FIWC九州役員唯一の霊長目ヒト科ゴリラ属(Gorilla)。普段は穏やかなその目と真っ黒な皮膚でメンバーを優しく包み込む。しかし、時に、ズレにズレた話し合いをも綺麗に元に

戻す冷静な判断力も合わせ持ち、ゴリラ界の明るい未来を暗示させてくれる。ちなみに、フィリピンにはゴリラは存在しないため、ゴリラらしきものを見かけた場合は、十中八九さとるである。何はともあれFIに熱い風を吹いてくれる優しいお兄さん。



To **あいな** From けいすけ

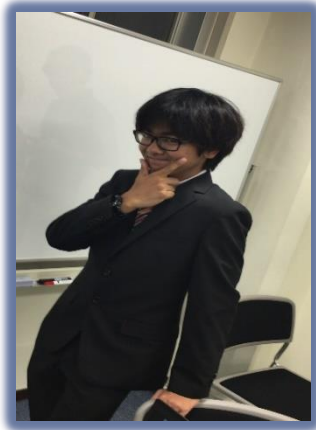
広報

FIWC 九州の広報係の池山あいな。彼女は九州大学 21 世紀プログラムというすごい変態が多い学部です(つまり変態です)。ですが、彼女の魅力は、自分の変態らしさを思う存分発揮できる場所だと

思います。彼女の変態らしさ、それは…超真面目。超に超がつくくらい真面目です。意見もはっきり言いすぎるくらいはっきり言います。ミーティングの議事録も知らぬまに取っています。すごいです。でも最近可愛げが増えて来てちょっと可愛くなってきました。ちなみに、ジャニヲタというもう一つの側面も持っています。



17



To **ホコタテ** From りょう

広報

広報係のほこちゃん！頭がよくきれいなし、役員を冷静にとりまとめてくれる頼りになる男！持ち前の人脈で FI とたくさんの人をつなげてくれる広報の要！さらに医学部医学科っていうんだからスペック高すぎ！今後もともにがんばラオス！

To **ユウタ** From ゆう

広報

ゆうた！やけど皆からふうたって呼ばれてます！なぜでしょう？それは初めての耶馬溪で土を混ぜる姿がレッサーパンダの風太にそっくりだったからです。だからレッサーって呼んでもいいのよ。後輩の皆はその姿見たことないよね！見てみたいよね！ぜひ、一度お願いしてみましよう。賢くて、っこみが大阪の極みで、♡の絵文字をよくツイッターで使ってる FI の頼れる広報です！





To **かずま** From あまね

耶馬溪係

彼を一言で表すなら中2。ほんとに幼い。抜けてるとこあるし大丈夫か?!□って思うこともしばしば。でもでも、やる時はやる男。耶馬溪係としてしっかり動いてくれています。一馬がいるだけでみんな笑顔になる！そんな一馬のお陰で耶馬溪はいつも楽しいんだなあと思います！ありがとう！！

To **まかよし** From ユウタ

耶馬溪係

耶馬溪係のまかべことまかよし。まかよしは世界で一番耶馬溪が似合うといっても過言ではありません。耶馬溪で話す、走る、踊る、まかよしからは耶馬溪への愛が伝わってきます。そんなまかよしは、今日もどこかで太陽のような笑顔で農作業に取り組んでいることでしょう！



To **あまね** From かいせい

会計

FIWC九州の会計係、ベイビーフェイス(?) あまね! 電卓カチャカチャ、パソコンカタカタ、シュパシュパみんなに指示出して、「ビジネスウーマンかつ!」って突っ込みたくなります。いや、ほんとに助かってます。(笑) これからも FI 会計をばっちり管理してほしいです!

To **けいすけ** From まかよし

チャイナキャンプリーダー

おはこんばんちは!頼れる兄貴けいすけ。男の中の男けいすけ。なんていい挨拶なんだろう、おはこんばんちは!朝も昼も夜もみんなを楽しませるけいすけにぴったりだなあ、おは

こんばんちは! けいすけは、この言葉のように年中無休で突っ走っていく!



19

2016年度役員もよろしくお願ひします!!

発行元：FIWC 九州

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前 3-6-1 小森ビル4A

福岡 NPO 共同事務所びおとーぶ内



☆連絡先一覧☆



<Facebook>



<Twitter>



<Mail>

